

病をきっかけに気づいた「無数の奇跡のなかで生かされている私」。

春日部教会 中井希依さん

平成30年、中井さんは「多発性骨髄腫」を発症した。断続的に襲ってくる痛みと不安に、「早く死ねたら楽になるのに…」と考えてしまうほどだった。だが、家族は懸命に治療を支え、また、仏教の仲間たちが、何度も病氣平癒の祈願供養をしてくれていると聞き、気力を振り絞ってつらい治療に耐えた。同年9月に受けた造血幹細胞の移植手術が成功。術後、無菌室で一ヵ月過ごし、病院の中庭に出て外の空気を吸い込んだときに、「呼吸することですら当たり前じゃない、私は無数の奇跡のなかで生かされていた」と気づいたという。その後の抗がん剤の新薬も奏功し、がん発覚から二年半後、骨髄中のがん細胞の数値は「0」になり、良好な状態が続いている。最近、中井さんはブログを開設した。一日一日を悔いなく、喜びをもって過ごす大切さを発信することで、同じ病に悩む人たちの力になることが、支えてくれた人たちへの恩返しだと確信している。



時代のキーワードは

「利他」——布施①

閉塞へいそくてき的な社会状況がにつき、人と人との身心しんしんの距離が遠のく傾向とはうらはらに、近年、信仰のあるなしを問わず、人さまのために利害りやうがいを超えて尽くす「利他」の実践が注目を集めています。ボランティア活動をはじめ、地域のお店や企業を助ける応援消費や、見返りを求めないクラウドファンディングなど、人のために自分の持っているものを使うことに喜びや達成感や生きがいを感じる人がふえているのは、それだけ人の心が広く、豊かになってきたということ、ほんとうにすばらしいと思います。

仏教で布施おそというおそと、財施ざいせい・法施ほふせい・身施しんせいあるいは無畏施むゐせい（畏れをとり除く）と教えられていますおそが、こうしてみると社会貢献や支援や奉仕とも言え換えられる、だれにも親しみやすい布施や利他のあり方が見つかりそうです。また、道元どうげん禪師は「布施は不貪ふとんなり」といわれます。貪むさばらなければ、その分が他の人のもとに届くので、おのずと布施をすることになるというのです。持続可能な環境や社会を考くえるうえでも、一人ひとりの「貪らない」という利他の実践は、より今日的こたいてきで示唆しそくに富む教えといえます。

立正佼成会